

京でつかんだ凶運の教訓！

4月23日から25日の二泊三日で修学旅行に行っていました。

私にとっては、おそらくこれが教職人生最後の修学旅行。正確に数えたわけではありませんが、教職についてこのかた、関西(奈良・京都・大阪)方面への修学旅行は10回前後になるのではと思います。

プライベートの旅ではありませんので、もちろんいつ行ってもゆっくりできたためしはありません。退職したらあらためて家族とのんびりと観光したいものです。

コロナ禍の時期、中学校は、やむなく修学旅行を取りやめたり、県内や近県のバス旅行やテーマパーク等への遠足に振り替えたりしました。コロナ禍に加え、働き方改革の世情もあって、当時、修学旅行も学校行事からフェイドアウトかとの観測が多少なりとも上がりました。

私が卒業した高校は修学旅行がない県内で唯一の高校でしたが、聞くところによるとかなり前の大先輩が旅館の高価な備品を壊したことが原因とのこと。そんな大きな引き金やコロナ禍のような一時的なブレはあったとしても、特にTDL、TDS、USJなどのテーマパークがグレードアップするにつけ、本来の教育的価値のある「修学」とは名ばかりながら、生徒の楽しく喜ぶ姿を目にすると、修学旅行は容易に削れない学校行事だと捉えています。

さて、京都の修学旅行見学地のナンバーワンは、何ととっても、今でも「清水寺」でしょう。若かりし頃引率した際、「先生、“しみず寺”までは、あと何分くらいかかるんですか？」と、生徒にバスの車中で尋ねられた時には、これまで何時間もかけてきた事前学習は一体何だったんだ、と大いに嘆いたものです。

そして、今も昔も、清水の舞台からの眺望や境内・本堂等の見どころには目をくれず、長い坂道の両側にずらりと並ぶ売店の土産物を次から次へと物色し、飲み食いに興じる子どもたちの姿には閉口するばかりです。

修学旅行での私の最大のネタ話といえば、清水寺で、おみくじの「凶」を引いたことがあることです。それも一度ならまだしも二度も。

自身いろんな場所でおみくじを引いて「凶」が出たのは、後にも先にも清水寺だけです。また、自分の親しい人の中に凶を引いたという話も滅多に聞いたことがありません。まあ、凶を引くことを口外することを躊躇しない私のような人間の方が少ないはずなので、それはもっともなことなのかもしれませんが。

1回目に凶をひいた時は愕然としました。まず、清水寺ともあろう日本一レベルのお寺が、おみくじに凶をあえて入れているのかと。人を嘆き悲しませる所業をするのは、神様なのか、仏様なのか、一体何様なのか、と。

何はさておいても、「凶」が醸し出す負のオーラ。「凶悪」、「凶暴」、「凶器」、「凶弾」……。いやなイメージしかありません。凶を引いた瞬間、本当に不愉快な思いに襲われました。

その後おみくじについてわかったことは、次のような内容です。

- おみくじの凶の割合は、その神社仏閣が自由に設定している。
- 凶の割合は、通常で概ね10~20%程度であるが、清水寺や浅草寺などは、凶の割合がかなり多い方である。
- 大吉、吉、中吉、小吉、末吉、凶、などというのは順番ではない。おみくじの本分は何をひいたかではなく、そこに書かれている内容が重要。
- おみくじの内容とは、神様仏様からのアドバイスであり、良い悪いを判断するのが主体ではない。
- 凶はチャンス！実に厳しいことが書かれていることが多いが、裏を返せばそこに書かれている内容から気付きを得て、今の自分を見つめ直すことができる。おみくじの内容に注意して改善してくことこそが大切。

凶は決して珍しくないし、おみくじに順番はないと慰められ、また、凶は、これ以上は下に落ちることはなく上がるだけ、ということか、と自分を納得させました。

その数年後の修学旅行。その時は、事情があって中国から日本に来たばかりの、日本語の読み書きもままならぬ自分のクラスの転校生に付き添って、清水寺を二人で一緒に回りました。

まだまだ日本にも不慣れで、買物等にも全く無関心な様子なので、「おみくじでも引こうか」と彼のためにお金を出して買ってあげました。すると、またまた出た出た「凶」の洗礼。まずいと思って、日本語は読めないだろうから何とかごまかそうとしました。でも、よく考えたら、彼は漢字の大先輩である中国出身者。でっかい「凶」の文字を見つめる彼の顔が、明らかに曇っていくのがわかりました。

身振り手振りで「いやいやこれは自分の分なんだよ」と、もう一つおみくじを引いて出た大吉の方をプレゼント。何とか日中友好に亀裂は入らずに事なきを得た懐かしい思い出です。

先週の修学旅行は、体調不良者もトラブルやアクシデントもなく、マナーや礼儀面も合格点のすばらしいものとなりました。3年生には、この修学旅行の成果を、今後の学校生活に十分に生かしてほしいものと期待しています。

そして、「吉」なる状況を弾み・励み・自信にするのはもちろん、「凶」なる状況を恨み嘆き落胆することなく、自身への叱咤・激励として次へのステップへのバネとする人生を。運に左右されるのではなく、運を呼び込む人生を。ピンチをチャンスにできる力、つまり「凶」を「吉」に転化できるような生きる力を身に付けてほしいと願っています。

あの日から数年後に中国に帰国して今は大人になった彼も、北の大地で頑張ってくれているのでしょうか。もしかしたら、インバウンドで賑わう日本にも観光旅行で訪れ、清水寺でおみくじをまた引いたかもしれないなあ。もしそうなら、今度は「吉」が出たでしょうか、それとも「凶」が出たでしょうか。

いずれにせよ、君の人生を決めるのはおみくじではない。君自身だからね。